

本校は2学期制を採っており、本日は終業式ではなく、夏休み前の全校集会となります。最初に、韓国正義女子高との交流について話をします。

先週の水曜日から4泊5日の日程で、生徒18名とともに行ってまいりました。1986年に姉妹校締結を結び、それから38年という月日がたつのですが、この4年間は新型コロナウイルスが世界中にまん延したため、移動をとまなう交流は途絶えていました。そして今年の2月、正義女子高の方から先に日本に来ていただくことで再開したのですが、こちらから韓国を訪問するのは5年ぶりのことでした。全体の交流会では、生徒代表あいさつや学校紹介については韓国語で行い、「花は咲く」のピアノ演奏、韓国でも有名なあいみよんの歌のギターでの弾き語り、K-POPアイドルの歌に合わせたダンスの披露と、韓国の高校生の興味・関心に合わせた発表をしました。正義女子高の方でも、本校の校歌を日本語で大合唱するなど、大歓迎していただきました。

私自身は正義女子高も韓国も初めてでしたが、仙台から飛行機で2時間半、九州に行くのと大差ない距離で、通りすぎる人々は見た目も日本人と区別するのは難しく、言葉の違いを除けば、異国に来ているという感覚はありませんでした。その言葉について少し詳しく話をしますが、世界では話されている言語が7000ほどあると言われており、国の数が200くらいですので、それよりも多いこととなります。つまり、一つの国で複数の言語が話されているというのはよくあることなのです。ヒトの脳は言語を習得しやすいようになってきていて、それだけに言語はその地域、地域で独自の進化を遂げていくわけです。今でこそ、世界中を飛行機が飛びかい、インターネットでつながる時代ですが、その歴史はまだ十数年～数十年という短さです。

日本語と韓国語は発音が似ているのだそうですが、それはともに中国から漢字語が伝わったということに他なりません。私は、韓国語は全く分かりませんが、「家族」とか「約束」など単語そのものがほぼ同じというものもあるそうです。隣国として交流を重ねてきた結果、徐々に言葉が似てきたということもあるのかもしれない。ただ、ソウルの街を歩いていると目に留まるのはハングル文字ばかりで、漢字や日本語を見かけることはほとんどありませんでした。韓国と日本はすぐ隣の国でありながら、それだけに政治情勢の影響を受けやすく、そういった事情があったからだろうと思いました。そんな中、え?!と思ったことが一つあり、それはホテルで朝食をとったときに見つけたのですが、使われているお皿に日本の有名な和歌が書いてありました。

東風吹かばにほひおこせよ梅の花 あるじなしとて春な忘れそ

これは、菅原道真が太宰府へ左遷されたときに詠んだ歌です。韓国と目と鼻の先にある福岡、太宰府天満宮に、学問の神様として祀られている菅原道真公の和歌をソウル市内のホテルで見つけて、感慨深い気持ちになりました。

話を学問に移すと、韓国は日本とは比べ物にならないくらい大学受験が大変で、正義女子高では、授業が終わったあと半数くらいの生徒は夜10時まで図書館で勉強してから帰るそうです。給食は高校生までは無償ですが、夕食については自己負担だということでした。一方、韓国では高校受験はなく、実業高校と一般高校の振り分けのみで、私立・公立間の差も高校間の格差も少ないそうです。ただし、人気のある高校は抽選の倍率が高くなるとのことで、正義女子高もその一つです。日本の姉妹校と交流しているというのも、人気に一役買っていると伺いました。

「見た目」については、顔かたちもそうですが、制服の着こなしもほとんど同じで、本校生が正義女子高の中に混じると見つけるのが難しいくらいでした。実は、私自身もエレベータの中で立派な髭を蓄えたアラブ人から、「Are you Japanese or Korean?」と英語で話しかけられました。「I am Japanese.」と答えると「Nice country!」と笑顔で話してくれました。サウジアラビアからビジネスで来ているとのことで、片言であっても言葉が通じるのは嬉しいものです。今回はたくさんの応募があった中から18名を選ばざるを得ず、心苦しかったのですが、来年2月には再び交流団を迎え、夏にはまたこちらから出かけることとなります。2年生、1年生はまだチャンスはありますので、韓国への興味・関心を失わずにいてほしいと思います。

次にクラスマッチについてです。関西弁をあやつる体育委員長の桶田こはるさんを初めとして、体育委員がよく頑張ってくれたおかげで、素晴らしいクラスマッチになりました。ティラノサウルスレースという新競技も大変盛り上がりしました。表彰式でクラスTシャツの背ネーム表彰をしたところ、「はらぺこあおむし」が3名いたのには大変驚きました。あとで冷静に考えてみると、本校は生徒数が1000名を超える大きな学校であることと、『はらぺこあおむし』という絵本が多くの子供たちに読まれているという事実があったことだと納得したところです。エリック・カールというアメリカ人が1969年に出版したもので、世界中70以上の言語に翻訳され、5500万部も発行されているようです。

夏休みが終わるとまもなく城北祭がやってきます。初日をやまぎん県民ホールでやるようになったのはコロナが流行り始めて体育館ではできないと判断したのが最初でした。今年で5年目になります。文化部の発表も個人のパフォーマンスも年々レベルが上がっているのですが、せっかく素晴らしい会場ですのだから、ティラノサウルスレース同様、新たな企画が欲しいと思っていました。去年2年1組がステージ上で素晴らしい合唱を披露してくれましたが、今年はそれを「全員合唱」という形にすることになりました。私立学校は時代の変化にいち早く対応することが求められます。その一方で、正義女子高との交流のように守り続けたいものもあります。いずれにせよ、どんなことにも始まりがあります。もし、今回の全員合唱が城北祭初日のクロージングとしてふさわしいものになれば、この先何年も、何十年も続けられる可能性があります。その記念すべき1年目が今年です。ぜひみんなで成功させましょう。

結びになりますが、藤原道真公が詠んだ「東風吹かばにほひおこせよ梅の花 あるじなしとて春な忘れそ」の歌が、どんな背景の中で詠まれたものかは夏休みの宿題とします。それでは、1か月の夏休みを事故なく過ごし、8月20日に元気に会いましょう。(令和6年7月19日 全校集会 校長講話)